

『幸せな時間』

株式会社虎屋 銀座菓寮

野崎 薫

虎屋菓寮の夏は、大勢のお客様で開店から閉店まで賑わう。だが9月になると、屋間の賑わいが嘘のように夕方には静かな時間が訪れる。そんな9月の日曜日の夕方。そのご家族はいらっしやった。ご注文を伺いに行くと小さな赤ちゃんを抱っこされている。

(まだ1ヶ月位かな。よく寝ている) ご注文はかき氷を2つ。あらかじめ、決めていらっしやったのかすぐご注文を承る。まずお父様のかき氷をお運びする。楽しみにされていたのだろう。満面の笑みだ。

食べ始めようとしたその時、赤ちゃんが

「ふぎゃあ、ふぎゃあ」と泣き出した。気にならない位の小さな声だがお母様は「すみません、すみません」と恐縮され、あやすのだが泣き止まない。そこにお母様のかき氷も。お父様が「急いで食べて代わるから。」とすごい勢いで召し上がり始めた。

(抱っこして差し上げようかな……。まだ、小さいから他人に触られるのは嫌かな。どうしよう。このままでは、美味しく召し上がっていただけない)

お父様が半分召し上がった所で赤ちゃんはお父様の手に。でも泣き止まない。このままではお母様もゆっくり召し上がれない。

「抱っこさせていただけますか」思い切ってお声掛けをした。お父様が赤ちゃんを預けてくださる。

「わあ、ふわふわで温かいですね。」首を動かしておっぱいを探す赤ちゃん。一生懸命でいとおしい。(かわいいな。こんな幸せな気持ちになれるのだったかな……。忘れちゃったな) そんなことを考えながら抱っこしているとすーっと静かになってくれた。

「よしよし。パパとママにゆっくり食べてもらおうね。このままでいてね」どれ位時間が経っただろうか。多分それほど長くない時間。慌ただしかった一日の締め括りに幸せな時間を過ごすことができた。お二人とも召し上がり終わって、私と赤ちゃんを眺めてくださっている。「ゆっくりしていただきましたか。良かった」閉店時間にお二人はお帰りになられた。その瞬間まで赤ちゃんは私の腕の中ですやすや。お帰りになるお二人の背中を見送りながら、若いパパとママに“頑張れ”とエールを送った。

翌日、会社のホームページにお父様からお言葉をいただいた。毎年とらやのかき氷を食べに行くことがお二人の行事だったこと。今年は赤ちゃんも小さいので無理かなと思ったけれど、思いきって食べに行くことにした。ぐずってしまった赤ちゃんを抱っこして貰え、久しぶりにデート気分ですっきり楽しいひと時が過ごせた、とお父様のあたたかな思い溢れるお言葉を寄せていただいていた。

いえいえ。楽しいひと時を過ごせたのは私です。あんなに幸せな時間をプレゼントしていただけたのですから。また来年、是非お越しくださいませ。よちよち歩きの赤ちゃんとお待ちしております。